

1 試合1打席に集中する仕事師



稲場枝里子

島根三洋電機

代打の切り札で、たまにDPで起用される。「緊張はするけど、できるだけ無心になり、絶対打つという強い気持ちになる」これが集中するコツらしい。

昨年も代打専門で打率・333、四死球が7個あり、出塁率は・545をマークした。菊川久美子監督は「稲場は1打席に集中できるから結果が出る」と、勝負強さを重視して、ここ一番の代打で起用し続ける。

大鵬薬品戦は7回二死から10球粘って中飛。YKK戦では2回二死二・三塁から代打で見事センター前に先制2点打を放ち、一塁ベース上でガッツポーズした。惜敗した平林金属戦でも3回は9打数3安打でチーム1の4打点を挙げている。

味方の攻撃中は、相手投手をできるだけ近くから見る。「素振りをしてから目を閉じ、バッターボックスでピッチャーと対戦している自分をイメージする」。いくら研究していても、投手が突然代わることもある。「控えピッチャーの練習も見てください」と、抜かりはない。

守備がないからヒマかと思えば、とんでもない。試合前は、ノックする大賀真理子コーチにボールを渡す役。試合が始まると一塁コーチへ走る。いつ声か

掛かるか分からないため「常に集中するのは難しい。試合の流れのなかで、自分がどこで使われるか予測している」と言う。

守備の時はベンチ最前列で声を出す。「打たれてもいいよ。思い切って行け」と投手を助めます。試合中にティーバッティングをすることもある。試合が終わり、移動する時はチームの旗を持つ。まったく忙しい。

富山県の滑川高では三番打者四番がYKKの助田麻依だった。県内では山口綾子（元トヨタ自動車）の雄山高校に勝てず2位ばかり。00年地元国体に出場して準優勝に輝いた。

学校の成績は普通科160人のなかで10番以内。リーグでは唯一の国立大学出身（東京学芸大）だ。「将来は総合型スポーツクラブを立ち上げて地元の各種スポーツを盛んにしたい」という夢がある。

主将の平川香奈子は「頭のいい子だから、考えて練習している」と見る。続けて「でも守備は機敏じゃないね」と笑う。足には自信がない。ショートとしての守備力もイマイチだが、握力は50kg以上ある。そして現状に満足しているわけではない。

「代打だけじゃ面白くないから」と、フル出場を目指す向上心こそ最大の武器だ。